

はくぶつかん

M HIRATSUKA CITY MUSEUM '88 4月号

*** 4月の行事 ***

4月		5月	
2日	土	7日	土
16日	土	7~8日	
17日	日	14日	土
23日	土	21日	土
24日	日	22日	日
26日	火	25日	水
		28日	土

土曜観察会	古文書講読会/土曜観察会
"/天体観察会 (ガイダンス)	天体観察会(七国荘)
相模川を歩く会(まとめ)	石仏を調べる会
石仏を調べる会	古文書講読会/土曜観察会
自然観察会(大船フラワーセンター)	相模川を歩く会
星を見る会"月と金星を見よう"	体験学習"草木染め"
	石仏を調べる会

・寄贈品コーナー：新資料収蔵展(2~28日)	・寄贈品コーナー：新資料収蔵展(6~29日)
・プラネタリウム：おとめ座の世界(24日まで)	・プラネタリウム：銀河はムラをつくる(1~29日)

●星を見る会「月と金星を見よう」

月齢10の月と、宵の明星として東方最大離角をすぎた金星を、望遠鏡で眺めてみます。

日時：4月26日(火) 18~20時

場所：博物館科学教室・屋上

参加自由：当日科学教室にお集まりください。

●体験学習「草木で染めよう」

日時：5月25日(水) 10~15時

場所：博物館科学教室

内容：身近かな植物を使って、ハンカチ、Tシャツなどを染める。

材料費(薬品等)：1人200円

申込み：5月10日までに往復ハガキで。希望者多数の場合は、抽選で20名。

みんなで調べよう

平塚のカエル — 調査協力者募集 —

内容：地域を分担して、アマガエル、ウシガエルなどのカエルの分布を調べます。調査は5~6月の各自都合のよい時に実施していただきます。カエルの声について研修会がありますので、予備知識は必要ありません。

日程：5月 8日(日) ガイダンス

6月11日(土) 研修会(夕方)

7月 3日(日) まとめ

申込み：4月25日までに往復ハガキで。小学生以下は保護者の協力が得られる方に限ります。

各行事の日時その他については、「広報ひらつか」と「はくぶつかん」でお知らせいたします。

●特別展
 夏期特別展 相模川流域の弥生時代(7~8月)
 秋期特別展 神奈川の植物(10~11月)
 春期特別展
 第2回博物館公募写真展(3~4月)
 移動博物館巡回特別展

●移動博物館
 2月~3月にかけて市内公民館2、3か所において開催予定 野鳥/植物/遺跡展ほか

●寄贈品コーナー
 4月 新資料収蔵展(人文部門)
 5月 " (自然部門)
 6月 絵ハガキ展
 8月 火星大接近
 9月 道具の歴史パート4
 11月 サマー・セミナー展
 12月 古い写真展
 1月 木の実のいろいろ
 2月 万田熊ノ台遺跡
 3月 漁撈用具の紹介

月替わりの小さな企画展です

●自然観察入門講座
 7~8月 セミのぬけがら調べ(生物)
 8月 太陽の観察(天文)

●みんなで調べよう"平塚のカエル"
 第2期4月 卵調査
 第3期5~7月 鳴き声調べ

●土曜観察会
 毎月2回・土曜日の午後
 自然の新聞作り

●自然観察会
 4月 大船フラワーセンター
 6月 箱根樹木園
 9月 江の島植物園
 11月 横浜自然観察の森
 1月 自然保護センター

県内の植物園をまわります

●博物館サマー・セミナー
 8月 土屋を探る(2泊3日)

●古文書講読会
 毎月第1・3土曜日、午後2~4時
 地域に残る近世地方文書を読む

●天体観察会
 4月 ガイダンス
 5月 天体写真の撮影法
 8月 ベルセウス座流星群の観測
 9月 火星の観測
 10月 "
 11月 東京天文台の見学
 1月 天体観測のまとめ

●体験学習
 5月 草木で染めよう
 9月 裏打ち
 10月 土器づくり
 11月 紙すき
 12月 おかざりを作ろう
 1月 星座早見表を作ろう
 2月 巣箱を作ろう
 3月 拓本墨を作ろう

●石仏を調べる会
 毎月第2・4土曜日
 地域に残る石造物の所在を調べる

●プラネタリウム一般投影話題
 4月 おとめ座の世界
 5月 銀河はムラをつくる
 6~7月 土星の環
 7~8月 真説・火星物語
 9~10月 今世紀最後、火星大接近
 11~12月 望遠鏡新時代

●相模川を歩く会
 毎月1回
 河口から水源までの自然と文化を調べる

投影日	券発売開始時刻	回	投影開始時刻
土曜日	朝9時より 第1回、第2回の券を同時発売する	第1回	14:00
		第2回	15:30
日曜日	朝9時より 第1回、第2回の券を同時発売する	第1回	11:00
		第2回	14:00
火曜日	学校専用		
水曜・木曜日	学校・団体専用		

●星を見る会
 4月 月と金星を見よう
 7月 月と土星を見よう
 8月 "
 9~11月 火星を見よう(7回)
 12月 木星と冬の星たち

●夏休み自由研究相談会
 7月と8月に各1回

海と川

2階展示コーナー 展28



このコーナーは、海と川のさまざまな面を、自然や人間の営みを通して、総合的に考える資料を提供するのがねらいです。海にすむ魚介類やいろいろな動物、潮の流れ、漁の歴史を示す古文書、いろいろな漁具や船、大漁祝いの万祝、さらに川の水生物や川辺の植物などが展示してあります。

2階の展示室では、このコーナーの前までは、それぞれテーマを絞りこんで、一つのことがらを詳しく紹介してあります。これに対して「海と川」では、私たちの身近にある海や川について、いくつかの側面からとりあげ、みなさんとともに考えていくことをめざしています。

地曳船と地曳網、海の根、回遊と漂着、川の漁と生物、変わりゆく川のサブテーマで展示しています。サブテーマに沿って、何回かにわけて解説していくことにします。

• 地曳船と地曳網

このコーナーにくと、まず大きな船が目に入ります。これは平塚の須賀で地曳網に使われた船です。どのくらいの長さがあるでしょうか。何人くらいが乗るのだろうか。どうやって船を動かす

のだろうか。いろいろ考えてみてください。

近くで見るとずいぶん大きく感じると思いますが、この船のいちばんの特色はミヨシと呼ばれる船首が一段と高く、大きく造られていることです。ミヨシの先端に手が届かないのではないのでしょうか。このようにミヨシが高く、大きく造ってあるのは、写真のように浜辺から海に出るときに、波を切って出なければならぬからです。とくに平塚周辺の海は荒く、ミヨシを高くする必要があったのがうかがえます。

もう一つの特色は、この船は昔ながらの方法で、木を材料にして造られていることです。あたりまえのように思われるかもしれませんが、現在ではFRPなどを材料とした船が多くなり、伝統的な木造船は次々と姿を消しています。

地曳船のうしろの壁には、地曳網の袋の部分だけが吊してあります。地曳網というのは、文字どおりU字型の網を海の中を曳いて魚をとる網です。ケースの中に、須賀の地曳網の網元の渡辺義晴さんが作った地曳網の模型が展示してありますのでよく見てください。この網は図のような構造をもっていますが、網はその場所の海の状況に合わせて作られるのがポイントです。袋の大きさから網全体の大きさを想像してください。

地曳網ではイワシ、シラス、アジ、サバ、カマスなどをとりますが、この網の操作には、浜で網を曳く人も含めて20人程度の人が必要です。平塚ではもともと盛んであった漁の一つで、盛時には18統もの組があったといわれています。

(小川)

